



平成31年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年2月4日

上場会社名 株式会社東陽テクニカ 上場取引所 東  
 コード番号 8151 URL <https://www.toyo.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 五味 勝  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 十時 崇蔵 (TEL) 03-3279-0771  
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年9月期第1四半期の連結業績(平成30年10月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年9月期第1四半期	5,075	22.2	71	—	26	—	26	—
30年9月期第1四半期	4,152	11.7	△266	—	△238	—	△187	—

(注) 包括利益 31年9月期第1四半期 △447百万円(—%) 30年9月期第1四半期 △30百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年9月期第1四半期	1.07	1.06
30年9月期第1四半期	△7.61	—

(注) 30年9月期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年9月期第1四半期	32,923	29,135	88.1
30年9月期	34,626	30,123	86.6

(参考) 自己資本 31年9月期第1四半期 29,010百万円 30年9月期 29,980百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年9月期	—	8.00	—	22.00	30.00
31年9月期	—	—	—	—	—
31年9月期(予想)	—	12.00	—	18.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年9月期の連結業績予想(平成30年10月1日～平成31年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,500	△0.1	1,500	△13.6	1,500	△14.4	950	△18.1	38.43
通期	24,000	1.7	1,400	△1.9	1,400	△3.1	1,050	△14.0	42.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年9月期1Q	26,085,000株	30年9月期	26,085,000株
② 期末自己株式数	31年9月期1Q	1,333,052株	30年9月期	1,361,647株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年9月期1Q	24,725,664株	30年9月期1Q	24,712,152株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは“はかる”技術を基本としたビジネスコンセプトを継続しながら、研究開発市場に傾注してまいりました。そして国内産業の次なる成長の糧となる“新しい技術・製品の開発”の一翼を担うべく、欧米を中心とした先端計測技術・機器の導入と、ソフトウェアを中心とした自社システム製品の増強に力を入れてまいりました。また、中国を中心としたアジア市場に加え、米国市場にも目を向け、当社製品のユーザー開拓に注力してまいりました。

この結果、連結売上高は50億7千5百万円（前年同四半期比22.2%増）となり、この内、国内取引高は46億円、中国や米国を中心とした海外取引高は4億7千5百万円となりました。

利益面では、営業利益7千1百万円（前年同四半期は2億6千6百万円の営業損失）、経常利益2千6百万円（前年同四半期は2億3千8百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2千6百万円（前年同四半期は1億8千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

当社グループは経営管理区分および社内組織の見直しを行ったことに伴い、当第1四半期連結会計期間より以下のとおり報告セグメントの統合、名称変更を行っております。

従来の「メディカルシステム」と「ナノイメージング」を統合し、「ライフサイエンス／マテリアルズ」に名称変更しております。さらに製品ラインの一部を「ライフサイエンス／マテリアルズ」から「物性／エネルギー」に移管しております。

また、従来の「情報通信」と「セキュリティ&ラボカンパニー」を統合し、「情報通信／情報セキュリティ」に名称変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した第1四半期連結累計期間に係る報告セグメントとの間に相違が見られます。

#### (情報通信／情報セキュリティ)

情報通信／情報セキュリティにおきましては、主力のネットワーク機器性能試験装置や自社製品Synesisの販売が伸びるなど、製品販売は大幅に増加しました。一方、情報セキュリティのサービスビジネスは現在立ち上げ中のため、経費が先行しております。この結果、情報通信／情報セキュリティの売上高は9億5千8百万円（前年同四半期比22.6%増）、営業損失は1億1千5百万円（前年同四半期は2億1千万円の営業損失）となりました。

#### (機械制御／振動騒音)

機械制御／振動騒音におきましては、主要顧客である自動車関連市場への販売とセンサー新規事業の販売で売上高が伸びましたが、新規事業立ち上げのため大幅に経費が増えました。この結果、売上高は14億8千3百万円（前年同四半期比24.8%増）、営業利益は2億2千5百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。

#### (物性／エネルギー)

物性／エネルギーにおきましては、引き続き自動車向け次世代電池やパワーエレクトロニクスの評価システムの販売が好調でした。特に電池関連の充放電評価システムは製品競争力もあり、販売を伸ばすことができました。また、電池の基礎研究分野向け市場では輸入製品に当社開発製品を組み合わせさせたシステム販売が伸びました。この結果、売上高は10億5百万円（前年同四半期比19.7%増）、営業利益は1億2千6百万円（前年同四半期比79.4%増）となりました。

#### (EMC／大型アンテナ)

EMCにおきましては、中国の自動車関連市場で一部販売に遅れがありましたが、主要顧客である国内自動車関連市場への販売が継続して好調です。大型アンテナにおきましては、衛星関連プロジェクトの販売遅れが継続しており低調でした。この結果、売上高は6億5千7百万円（前年同四半期比13.7%増）、営業損失は4千7百万円（前年同四半期は8千4百万円の営業損失）となりました。

#### (海洋／特機)

海洋／特機におきましては、防衛省向け新規取扱商品の販売に加え、国交省の建設情報化（i-Construction）プロジェクトによる民間の建設・調査会社からの需要が継続しており販売を伸ばしました。この結果、売上高は3億6千8百万円（前年同四半期比37.9%増）、営業利益は6千5百万円（前年同四半期は3百万円の営業損失）となりました。

#### (ソフトウェア開発支援)

ソフトウェア開発支援におきましては、主力の構成管理ツールや静的解析ツールの販売が堅調に推移しました。また、ソースコード脆弱性診断テストツールは大幅に伸びました。この結果、売上高は2億5千3百万円（前年同四半期比13.5%増）、営業利益は2千2百万円（前年同四半期比134.0%増）となりました。

#### (ライフサイエンス／マテリアルズ)

ライフサイエンス／マテリアルズにおきましては、医療機関向けの画像診断システムや国内医療機器メーカー向けOEM製品の販売は前年並みでした。一方で、電子顕微鏡の販売は昨年より伸びましたが、競合との厳しい価格競争により十分な利益を確保できませんでした。この結果、売上高は3億4千8百万円（前年同四半期比27.9%増）、営業損失は1千9百万円（前年同四半期は5千3百万円の営業損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ17億3百万円減少し、329億2千3百万円となりました。主な減少要因は、現金及び預金の減少4億7千2百万円、受取手形及び売掛金の減少6億2千3百万円、有価証券の減少8億2千3百万円等によるものであります。一方、主な増加要因は、商品及び製品の増加7億5百万円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ7億1千5百万円減少し、37億8千7百万円となりました。主な減少要因は、未払法人税等の減少3億8千6百万円、賞与引当金の減少4億1千1百万円等によるものであります。一方、主な増加要因は、支払手形及び買掛金の増加1億5千1百万円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ9億8千7百万円減少し、291億3千5百万円となりました。主な減少要因は、利益剰余金の減少5億2千8百万円、その他有価証券評価差額金の減少4億4千2百万円等によるものであります。一方、主な増加要因は、自己株式の増加3千2百万円等によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年9月期の連結業績予想につきましては、平成30年10月30日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,287,203	2,814,354
受取手形及び売掛金	5,127,980	4,504,956
有価証券	3,589,696	2,766,469
商品及び製品	1,130,129	1,836,080
その他	443,678	512,829
貸倒引当金	△500	△400
流動資産合計	13,578,187	12,434,290
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,213,507	2,196,891
車両運搬具（純額）	10,792	9,888
工具、器具及び備品（純額）	717,334	782,263
土地	5,607,940	5,607,940
有形固定資産合計	8,549,576	8,596,984
無形固定資産		
のれん	161,934	152,779
ソフトウェア	1,078,396	971,877
ソフトウェア仮勘定	161,916	219,657
その他	15,527	15,457
無形固定資産合計	1,417,775	1,359,772
投資その他の資産		
投資有価証券	8,757,822	8,042,148
退職給付に係る資産	509,665	517,577
繰延税金資産	354,830	506,650
長期預金	700,000	700,000
その他	878,498	884,685
貸倒引当金	△119,723	△118,929
投資その他の資産合計	11,081,093	10,532,132
固定資産合計	21,048,444	20,488,889
資産合計	34,626,632	32,923,180

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,330,462	1,481,894
未払法人税等	415,028	28,097
賞与引当金	671,590	260,000
役員賞与引当金	70,000	18,000
その他	1,315,871	1,301,520
流動負債合計	3,802,953	3,089,511
固定負債		
退職給付に係る負債	618,297	618,764
その他	82,308	79,569
固定負債合計	700,606	698,334
負債合計	4,503,559	3,787,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,158,000	4,158,000
資本剰余金	4,603,500	4,603,500
利益剰余金	21,823,583	21,295,221
自己株式	△1,532,438	△1,500,255
株主資本合計	29,052,644	28,556,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	971,836	529,602
繰延ヘッジ損益	13,219	△15,181
為替換算調整勘定	△50,275	△55,543
退職給付に係る調整累計額	△6,783	△5,087
その他の包括利益累計額合計	927,997	453,790
新株予約権	142,430	125,079
純資産合計	30,123,073	29,135,334
負債純資産合計	34,626,632	32,923,180

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成30年12月31日)
売上高	4,152,224	5,075,862
売上原価	2,271,578	2,821,624
売上総利益	1,880,645	2,254,238
販売費及び一般管理費	2,147,467	2,182,307
営業利益又は営業損失(△)	△266,821	71,931
営業外収益		
受取利息	2,553	4,129
受取配当金	22,914	24,192
有価証券売却益	—	2,450
為替差益	11,654	998
その他	11,943	19,960
営業外収益合計	49,066	51,732
営業外費用		
支払利息	1,640	533
和解金	—	55,947
持分法による投資損失	18,590	40,305
その他	101	21
営業外費用合計	20,332	96,808
経常利益又は経常損失(△)	△238,087	26,854
特別利益		
固定資産売却益	189	—
投資有価証券売却益	—	57,954
特別利益合計	189	57,954
特別損失		
固定資産処分損	1,096	145
特別損失合計	1,096	145
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△238,994	84,663
法人税、住民税及び事業税	3,000	3,000
法人税等調整額	△54,044	55,140
法人税等合計	△51,044	58,140
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△187,949	26,523
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△187,949	26,523



四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△187,949	26,523
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	158,504	△442,234
繰延ヘッジ損益	△3,790	△28,401
為替換算調整勘定	3,310	△8,015
退職給付に係る調整額	△12,456	1,695
持分法適用会社に対する持分相当額	11,969	2,747
その他の包括利益合計	157,537	△474,207
四半期包括利益	△30,412	△447,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△30,412	△447,684
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	情報通信/ 情報セキュリティ	機械制御/ 振動騒音	物性/エネルギー	EMC/ 大型アンテナ	海洋/特機
売上高	781,748	1,189,143	839,669	578,421	267,395
セグメント利益又は 損失(△)	△210,891	229,946	70,400	△84,686	△3,661

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア 開発支援	ライフサイエンス/ マテリアルズ	
売上高	223,403	272,441	4,152,224
セグメント利益又は 損失(△)	9,511	△53,785	△43,167

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△43,167
全社費用(注)	△223,654
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△266,821

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない営業費用であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	情報通信/ 情報セキュリティ	機械制御/ 振動騒音	物性/エネルギー	EMC/ 大型アンテナ	海洋/特機
売上高	958,114	1,483,842	1,005,458	657,671	368,687
セグメント利益又は 損失(△)	△115,640	225,525	126,312	△47,565	65,446

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア 開発支援	ライフサイエンス/ マテリアルズ	
売上高	253,596	348,492	5,075,862
セグメント利益又は 損失(△)	22,253	△19,030	257,301

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	257,301
全社費用(注)	△185,370
四半期連結損益計算書の営業利益	71,931

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない営業費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは経営管理区分および社内組織の見直しを行ったことに伴い、当第1四半期連結会計期間より以下のとおり報告セグメントの統合、名称変更を行っております。

従来の「メディカルシステム」と「ナノイメージング」を統合し、「ライフサイエンス/マテリアルズ」に名称変更しております。さらに製品ラインの一部を「ライフサイエンス/マテリアルズ」から「物性/エネルギー」に移管しております。

また、従来の「情報通信」と「セキュリティ&ラボカンパニー」を統合し、「情報通信/情報セキュリティ」に名称変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した第1四半期連結累計期間に係る報告セグメントとの間に相違が見られます。